

皆様、新年あけましておめでとうございます。そして、大阪布教区信徒大会おめでとうございます。

新しい年が明けてまもない今日のこの日に、ここ大阪にまいることができ、大阪布教区を中心とする信徒の皆様と親しくお目にかかり、皆様と共に心新たに本年のスタートを切ることができますことを大変嬉しく思っております。

先程は、成井理事長より、本年の①之光教団の皆様が進まれる方向を力強くお示しいただき、皆様のこの大会にかけられる熱い思いがひしひしと伝わってまいり、感動で胸がいっぱいであります。

そして、ただいまは、〇〇布教所の〇〇さん、〇〇布教所の〇〇さん、お二人より感謝奉告をご発表いただき、ありがとうございました。

私どもは、常日頃、いろいろな悩みや困難に直面する中で、また、物事が自分の望むようになるかならないか、期待したり心配したりする中で、一喜一憂し、様々な思いを抱きます。

神様は、そうした想念を私どものもものように感じさせてくださっておりますが、神様ご自身のものであり、神様がお使いになるために用意された想念です。

今日この場でお二人が私どもを代表してご発表になり、その内容を私どもが皆で聞かせていただき、何かを感じさせていただいたということは、私どもは、一人ひとり別々に、神様にお使いいただいているのではなく、いつも多くの方々と共に、私どもの想念をお使いいただき、共に養い育てられている身であることを明主様は教えてくださっていると思います。

そして、その目に見えない想念の力は、限りなく強く大きいものであります。

本日、私どもが一堂に会し、お互いに明主様との深い絆で結ばれていることに感謝し、明主様と共にあるメシアの御名にあって、全人類とその父母先祖の方々と共に、天地万物一切と共に、すべての原点である天国に立ち返らせていただきます、という想念を神様に捧げさせていただく中で、この大会が開催されておりますことを、明主様はさぞかしお喜びのことと思います。

明主様が“よく帰って来たね、と、私どもを、そして、私どもと関わりあるすべての方々と喜んで迎えてくださって、一人ひとりに笑顔で臨んできておられるような気がいたします。

私どもと共におられる多くの先達の方々も、どんなにか喜んでいらっしゃることでありましょう。

さて、去年は戦後70年ということで、いろいろな分野で、戦争、そして、平和という問題がテーマとして取り上げられました。

昔も今も、人間は平和を願い、平和への祈りを捧げながらも、人間同士お互いにいろいろな形で対立し、争いを繰り返してまいりました。

平和と申しますと、私どもは、人間同士が相争うことをやめ、お互いの和を尊重することをまず考えます。

私どもは、こうした私ども人間同士の和のことは考えますが、私ども人間と神様との和について考えたことがあるでしょうか。

明主様は、お歌に、「国と国人と人との涯はてもなき争いさかひ止むるは神の外ほかなき」とお詠みになりました。

このお歌を通して、私は、いかに人間が知恵、想い、努力を尽くしても、人間の力ではいかなる和をも生み出すことはできないのだという、明主様からの厳しいメッセージが込められていると思わせていただきました。

そして、私どもにとって最も大切な和とは、私ども人類と神様との和であり、神様との和があつてこそ、人間同士の和が許されることを忘れていたことに気づかせていただきました。

神様との和とは、神様の愛を知ることです。

私ども人類は、この神様の愛を知るために生まれてきました。

神様の愛を知って、神様の子供として新しく生まれるために生まれてきました。

なぜならば、神様は、私どもの魂の親であるからです。

神様は、私どもを、私どもの原点である天国において、分わけ霊みたまとしてお生みになる時に、ご自身のすべてを私どもに分け与えてくださいました。

ご自身の永遠の命と、永遠の意識と、永遠の魂を、大きな愛をもって、私どもに分け与えてくださいました。

神様は私どもを、一人残らず、ご自身の愛に結んでくださったのです。

しかしながら、私ども人類は、神様の愛を知らずに生きてまいりました。

私どもは、天国が自分の原点であることを忘れ、神様が魂の親であることを忘れ、神様の愛から離れた存在になっておりました。

私どもは、私どもの無知のゆえに、長い間ずっと神様と争っている姿だったのではないのでしょうか。

そんな私どもであっても、私どもを限りなく愛してくださっている神様は、夜昼転換をもって私ども人類を赦してくださり、私どもとの和を回復してく

ださいました。

そして、そのことを、明主様を通して私どもに思い出させてくださいました。

後ほど、〇〇布教所の信徒で、「〇〇」というバンドのメンバーを務める〇〇さん作詞作曲による「ハートソング」という曲を、ご本人による演奏に合わせて、青年信徒の方々が歌ってくださいます。

そして、最後に私ども一同で「偉大なる御光」という曲を歌わせていただくことになっております。

この曲は、今から51年前の昭和40（1965）年、ブラジル宣教本部の発足に際し、現地ブラジルの信徒によって作詞作曲され、日本では、その年の明主様の御生誕祭の奉納演芸の中で、初めて披露されました。そして、現在に至るまでの長い間、日本を含め、世界のいろいろな国々の信徒によって、祭典行事などの折に歌われております。この歌は、全世界の多くの信徒にとって大切な歌であります。

その日本語の歌詞の中に「神の愛に結ばん」という言葉があります。

神様は今、“わたしの愛に結ばん、と仰って、全世界を、全人類を、再びご自身の愛に結んだことを私どもに告げ知らせてくださっております。

ですから、私どもは、一人ひとり、自分自身が神様の愛をないがしろにし、神様の愛から離れ、神様と争っていた姿であったことに気づくと同時に、神様が和を回復してくださったことを認め、感謝させていただく必要があると思います。

神様ご自身が、私どもを赦してくださり、和を回復してくださったのです。

私どもは、神様の愛に結ばれていないのではなく、結ばれているのです。

私どもは、神様の大いなる愛による赦しによって、神様との和が回復された喜びをもって、この「偉大なる御光」という歌を、大きな声で力いっぱい歌わせていただきたいと思います。

終わりに、明主様が私どもをご自身とひとつに結んで、常に進化させてくださっていることに感謝し、明主様に倣って新しく生きるものとなるために、皆様と共に更に一層進化成長させていただき、この一年、勇気と希望を胸に、何事であろうとも、常に明主様と共にあるメシアの御名にあって主神をお讃え申し上げる一年とさせていただきたいと願っております。

ありがとうございました。

以上